

会田桃子オルケスタ クリスマスライブ

(2017年12月17日@目黒ブルースアレイジャパン)

齋藤富士郎

会田桃子が率いるオルケスタのライブを聴いた。開演時刻が12:00という今どき珍しい昼下がりのライブである。筆者は会場の目黒ブルースアレイジャパンは始めてであったが、東京都JR目黒駅直ぐ近くのライブスポットで、ライブスポットとしては広い方ではないかと思われる。

オルケスタのメンバーは

会田桃子：リーダー、バイオリン、ボーカル

北村 聡：バンドネオン、鈴木崇朗：バンドネオン、川村いずみ：バイオリン、吉田篤貴：ビオラ

内田麒麟：チェロ、三枝伸太郎：ピアノ、高杉健人：ベース

の8人編成で、今どきとしては大編成である。会田桃子、北村 聡、鈴木崇朗はオルケスタ・アウロラのメンバー。同じくオルケスタ・アウロラのメンバーの吉田 篤は当初出演予定であったが急遽出られなくなったので、川村いずみが代役を務めた。彼女は何と妊娠9か月の身重とのことであった。

演奏曲目は

第1部	第2部
La Cumparsita	Libertango(a)
Mala junta	Soledad(*) (b)
Toda mi vida	A Orlando Goñi
Por la vuelta(*)	La ultimo café(*)
Los mareados	Sueño de juventud
君と朝ごはん (会田桃子作)	Canaro en París
Che, Bandoneón(*) (+)	Peregrinación (三枝伸太郎作)
De tan palo	Toda mi esperanza (会田桃子作)
彼女の大きな愛の為に (会田桃子作)	

アンコール曲：クリスマス・イブ (会田桃子作) (*) (c)

(*)：会田桃子の歌

(a)：バイオリン×2、ビオラ、チェロの弦楽四重奏編成

(b)：バイオリン×2、ビオラ、チェロ、バンドネオン、ピアノの六重奏編成

(c)：会田桃子の歌、バンドネオン、バイオリン、ビオラ、チェロ

(+)：バンドネオン伴奏

の18曲であった。

取り上げた曲目の中ではLa Cumparsita が一番古く、Canaro en París と Mala junta がこれに次ぎ、Soledad、Sueño de juventud、Por la vuelta は30年代の曲目であり、その他は40年代～現代の曲で、更に会田桃子や三枝伸太郎の自作曲がアンコールを含めて5曲と全体的にバランスのとれた構成である。欲を言えば、これまで日本のオルケスタは取り上げてはいないが、タンゴ・ファンの強い支持を得ている古い曲を取り上げて欲しいと思う。例えばフィルポの“Una noche en la milonga”やパチョの“Plegaria”

などは如何であろうか。参考までに、“Plegaria”はアマチュア・オルケスタのオルケスタ・スエニョスが演奏している。耳コピーによる採譜は大変だろうが、そこはプロである。

臨時編成とは言え、オルケスタ・アウロラのメンバーが3人揃っているのものであるのでアンサンブルは良く、大編成ならではの非常に充実した演奏内容であった。川村いずみが吉田 篤の代役を立派にこなし、これにビオラの吉田篤貴とチェロの内田麒麟、それにリーダーの会田桃子が加わった弦楽陣はそれだけで弦楽四重奏が成り立つ見事なものであった。バンドネオンも北村 聡と鈴木崇朗の2人が揃ったことでセクションならではの力強い響きを聴かせてくれた。欲を言えばもう1人バンドネオンが加わると申し分ないと思ったが、無いものねだりか。ピアノの三枝伸太郎とベースの高杉健人もオルケスタの土台をしっかりと固めると共に、随所にソロ・パートを聴かせるなど、心憎いものであった。

会田桃子の歌にも感心した。彼女は歌が上手いことは知っていたが、これまでは何となく余技乃至は裏芸のように思っていた。しかし今回の彼女の歌を聴いて、もう余技ではなくなったと思った。本職の歌手たち顔負けである。会田桃子のオルケスタに歌手は要らない。本人が歌えば良いのである。

今回、演奏の途中で北村 聡のバンドネオンが故障するというハプニングがあった。幸い、直ぐに治って事なきを得た。同じようなことは半年ほど前にアストロリコ四重奏団のライブを聴いた時にもあり、その時は門奈紀生が10分前後退場して調整に当たった。バンドネオンは演奏中に壊れることがあるとは聞いてはいたが、やはりこういうことはあるものだ。日本にはタンゴ・ファンがアルゼンチン訪問の時に買ってきて、結局弾かないまま死蔵されているバンドネオンが多数あることはつとに知られている。勿体ないことである。楽器は展示物ではない。弾いて音を出さねば価値の無いものである。更に、タンゴ演奏にはやはり古いバンドネオン、特にAA印がベストであることもよく知られている。日本に死蔵されているバンドネオンを掘り出して、実際の演奏に役立てることが必要である。これはタンゴ・ファンとタンゴ演奏家が共同して進めるべきことである。

結論として、今回のライブは大成功であり、開演時刻も含めてこういうライブは今後も企画して欲しいと思う。但し、今回非常に残念なことに、チラシ（フライヤー）が無く、会場での写真撮影も不可だったので、ここに画像を示すことができない。